

大栗博司主任研究員、日本文藝家協会の会員に選出される

カリフォルニア工科大学教授でKavli IPMU主任研究員を兼ねる大栗博司さんは、研究の傍らこれまでに一般向けの著作を数多く世に送り出しており、この活動が評価されて2017年6月23日付で日本文藝家協会の会員に選出されました。



大栗博司さん

日本文藝家協会は、1926年（大正15年）に菊池寛を初代会長として設立された文藝家協会を前身とし、第2次世界大戦中の1942年（昭和17年）に一度解散した後、1946年（昭和21年）に再発足の文芸を職業とする会員の職能団体です。作家、劇作家、評論家、随筆家、翻訳家、詩人、歌人、俳人等を会員とし、文芸家の権利保護に加え、日本の文芸文化全般の隆盛を目的として活動しています。

WPIのPD・POによる平成29年度現地視察

2017年7月19日にWPIのPD（プログラムディレクター）、PO（プログラムオフィサー）による平成29年度現地視察が実施され、10年間の拠点の成果を踏まえた今後5年間の延長期間における進展計画、および大学のビジョンと支援についての確認が行われました。視察団は、今年度からWPIのPDに就任された宇川彰氏、設立当初からIPMU / Kavli IPMU担当POを務め

る三田一郎氏、昨年度までWPIのPDを務められ、今年度新しくWPIのAD（アカデミーディレクター）に就任された黒木登志夫氏、および日本学術振興会WPI事務局の方々でした。

初めに村山機構長の延長期間における9つの挑戦項目とその進捗状況の報告、続いてホスト機関である東京大学の小関敏彦研究担当理事・副学長による東京大学のビジョンとKavli IPMUのシステム改革の大学への波及効果および大学の今後の支援についての説明があり、その後視察団とKavli IPMU/東大の間で活発な質疑応答が行われました。

今回の現地視察は2時間という短時間のもので、最後にPD、PO、ADからの講評があり、無事終了しました。



文科省から戸谷次官、関局長、大洞室長がKavli IPMUを視察

2017年7月、8月、9月にそれぞれ文部科学省から次の方々東京大学柏キャンパスを訪れ、Kavli IPMUを視察されました。本誌25ページのDirector's Cornerに掲載されている写真も併せてご覧ください。

7月21日には研究振興局から関靖直局長と随員の錦泰司学術機関課専門官、加藤久乃基礎研究振興課企画調整係研/国際研究拠点形成支援係係員が大気海洋研究所、宇宙線研究所、新領域創成科学研究科、物性研究所に続いてKavli IPMUを訪れました。Kavli IPMUでは村山機構長から概要と研究内容の説明を受けた後、研究棟内とティータイムを視察しました。

8月21日には同じく研究振興局から大洞龍真基礎研究振興課基礎研究推進室長と重田佑樹基礎研究振興課企画調整係長/国際研究拠点形成支援係員が

Kavli IPMUを訪れました。村山機構長の説明に続く研究棟内の視察中に、3階のティータイムが行われる交流スペースのテーブルの上に置かれていた大栗博司主任研究員が著者の一人である「真理の探究－仏教と宇宙物理学の対話」(幻冬舎)に大洞基礎研究推進室長が興味を示される一幕もありました。

9月15日には戸谷一夫文部科学省事務次官がKavli IPMUを視察され、大洞室長と出塩進総務課事務次官室課長補佐が随行しました。定番の村山機構長による概要と研究内容の説明の後、戸谷次官は、大学のシステム改革の内容に特に関心を示され、外国人研究者を受け入れる際の年金や保険の問題などに関して村山機構長と意見を交わされました。続く研究棟内を視察ではティータイムで研究者とも歓談され、終始和やかな雰囲気ですべてを終えられました。

「サイエンスカフェ宇宙2017」の第2回開催

「サイエンスカフェ宇宙」は、毎年Kavli IPMUと東京都西東京市にある多摩六都科学館の共催で行われ、今年で9年目となります。今年の「サイエンスカフェ宇宙2017」においては、これまでKavli IPMUの主催・共催で行われてきた一般向け講演会での初めての試みとして、通訳無しで外国人研究者が英語で講演を行うスタイルにより、第1回を6月24日に実施しました(Kavli IPMU News No. 38の39ページ参照)。7月8日には同じスタイルで第2回を実施し、Kavli IPMU博士研究員のデイヴィッド・スタークさんが「銀河の誕生・成長・死」と題して講演しました。参加者は約40名で、その40%は中高生でした。

講演の前半では銀河の誕生と成長を話題とし、ダークマターが寄り集まってきたダークマターハローの中にガスが入り込んでいき、銀河が成長して行く様子を豊富な画像やシミュレーションで紹介しました。後半は銀河の死についての話題で、成長した銀河が

どのようなメカニズムで星の形成を停止し、不活発な銀河になっていくのか説明しました。併せて、銀河が星の形成をなぜ停止するのかは諸説あり、はっきりとした理由はまだ解明されておらず、デイヴィッドさん自身も銀河が星の形成をなぜ停止するのかに関する研究に携わっていることを最後に紹介しました。

講演から質疑応答まで全て英語で行われましたが、アンケートからは「英語が難しかったが、先生の熱意が伝わりました」「またこういった英語での講演を聞きたいです」という声が見られました。また、イベント終了後も英語で個別に質問する参加者もいるなど、「英語でサイエンスカフェ」の試みは今後につながる成果が得られたものと思われま



Kavli IPMU サイエンスカフェ「加速器実験っておもしろい？」開催

2017年7月15日にKavli IPMU主催のサイエンスカフェ「加速器実験っておもしろい？」を研究棟で実施し、中高生を含む約40名が参加しました。

このイベントでは、まず大講義室で欧州原子核研究機構(CERN)を舞台としたヒッグス粒子発見までの5年間、6人の物理学者を追ったドキュメンタリー映画“Particle Fever”のKavli IPMUが独自に制作した日本語字幕版(その経緯についてはKavli IPMU News No. 30の49ページ参照)を上映しました。

その後、3階の交流スペース、藤原交流広場に会場を移し、シカゴ大学教授でKavli IPMU主任研究員を兼ねるヤンキー・キムさんを講師として通訳を介さず英語でサイエンスカフェを行いました。ヤンキー・キムさんは、加速器を用いた高エネルギー物理学実験に

長年携わり、ヒッグス粒子発見に貢献したATLAS実験にも参加しており、その立場からヒッグス粒子の発見の重要性やヒッグス粒子発見後の次世代の高エネルギー実験について述べました。更に、日本で実施され、あるいは計画されている実験、SuperKEKB/Belle II実験、ハイパーカミオカンデ計画、ILC計画などに言及しました。講演後の講師と参加者との交流の時間には、お菓子を片手に積極的に英語で質問をする参加者の姿が見られました。



SSH全国大会でブース展示

2017年8月9日と10日の2日間、Kavli IPMUはWPI(世界トップレベル研究拠点プログラム)の他の8拠点と共に、神戸国際展示場(兵庫県神戸市)で開催された「平成29年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会(通称:SSH全国大会)」においてブース展示を実施しました。

「物理を学ぶ、物理を作る—高校物理から宇宙研究の最先端へ—」開催

2017年8月19日、理科を教える中学校・高校教員を対象とした「物理を学ぶ、物理を作る—高校物理から宇宙研究の最先端へ—」が東京大学本郷キャンパスの弥生講堂アネックス セイホクギャラリーで開催されました。このイベントは東京大学高大接続研究開発センター高大連携推進部門CoREFユニット*とKavli IPMUの共催によるもので、約30名の教員が参加しました。

プログラムは体験型演習から開始され、「ダークマター」について高校1年生に分かりやすく説明するという課題が提示され、グループに分かれて資料を基に考えて発表しました。その

後、村山機構長が講演し、なぜダークマターが存在すると言われているのか解説したほか、高校生の授業範囲で取り上げられそうな身近な現象、例えば二次曲線と惑星軌道、炎色反応と吸収線のつながりなどいくつかの事例を紹介しました(25ページの写真参照)。

最後に、参加者と高大接続研究開発センターの白水始教授、Kavli IPMUの村山機構長との意見交換の時間が設けられ、最先端科学を普通の授業に取り入れるにはどのようにすれば良いか等について話し合われました。

人事異動

副機構長の異動

2017年6月7日付けで春山富義事務部門長が副機構長兼務となりました。

また、2017年7月13日付けで片山伸彦Kavli IPMU教授が副機構長を退任しました。今後は研究に専念します。

昇任

Kavli IPMU准教授の戸田幸伸さんが2017年7月16日付けでKavli IPMU教授に昇進されました。



戸田幸伸さん

転出

次の方々が転出しました。[括弧内はKavli IPMU在任期間です。]

Edmond Cheungさん[2014年10月1日—2017年9月30日]、Kavli IPMU博士研究員からRaise.meのLead Data Scientistへ。

Dulip Piyaratneさん[2014年10月16日—2017年8月13日]、Kavli IPMU博士研究員からアリゾナ大学のPostdoctoral Research Associateへ。

Wiphu Rujopakarnさん[2014年3月16日—2015年8月7日および2016年3月1日—2017年7月10日]、Kavli IPMU博士研究員からタイ王国のチュラーロンコーン大学理学部物理学科講師へ。

*大学発教育支援連携ユニット(Consortium for Renovating Education of the Future)